

令和5年度自己評価表

中長期目標	1 個々の持つ個性、適性、可能性を最大限に開花させる 2 自主・自律の精神と、他者への思いやりを持った心の育成と創造性豊かな人格を形成する 3 地域の特性を生かして成長し、確かな知識と技術を身につけ未来を切り開く人間を育成する
-------	---

今年度の重点目標	1 基本的生活習慣の確立	3 ふるさとキャリア教育の推進	5 業務改善の取組
	2 基礎学力の向上	4 地域との連携と情報発信	

年 度 当 初				評 価 結 果 (2) 月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣の確立	■家庭連絡を適宜行い家庭と連携し、頭髪服装指導に努めた。生徒が主体的に守れるように指導回数を変更したが、一部の生徒は守れていない ■問題行動については、各学年・分掌と連携して指導・対応したが、繰り返す生徒があった ■遅刻者数は昨年度と比較して40%減少している ■「分離礼」については、定着しつつある。「静止礼」の定着が不十分な面がある	■生徒が主体的に、基本的生活習慣の確立に取り組める ■問題行動を繰り返す生徒が減少する ■遅刻者数を昨年度より10%減少させる ■「分離礼」「静止礼」を習慣化する	■「道路にふさわしい頭髪・服装」について理解させ、自ら意識して身を整えられるように粘り強く指導する ■問題行動には、問題点をしっかりと理解させ、保護者とも連携し繰り返さないように指導する ■遅刻指導のルールを職員間で確認し、引き続き粘り強く取り組む ■授業での「分離礼」「静止礼」を継続し、日頃から「自ら挨拶をする」習慣が身につくよう指導する	■頭髪服装指導は、学年によっては1回目の不合格者が昨年より圧倒的に多く、最終指導でもなかなか指導に乗らない生徒もあり粘り強く指導した。 ■問題行動の対応については、学年・分掌と連携して対応・指導した。今年度の指導件数(指導部厳重注意以上)は昨年度と比べて3割減であった。 ■遅刻については、1月現在で「300人」となり昨年度と比較して約2割増加した。 多いのは特定の生徒で、各学年2～3名遅刻指導を行った。 ■授業での「分離礼」「静止礼」を継続しているが、「自ら挨拶をする」生徒が減っている。あいさつ運動を後期に2回行った。それぞれ3週にわたって執行部と学年の生活委員、有志のクラブが参加して実施できた。 ■学年会や教科担当者を通して、生徒情報を積極的に共有できた。 ■全職員が連携し、支援の必要な生徒に対して保護者、本人と話し合い生徒に寄り添った支援を行うことができた。また、SCや医療機関のみならず、SSWなどと連携し、早期発見に努めスピーディーに対応することができた。	C	■生徒指導について、全職員で共通理解し、指導できる体制づくりをするとともに、粘り強い指導を続ける。また、保護者の理解、協力を得よう努める。 ■時間を守る大切さを今後も引き続き指導していく。 ■授業での「分離礼」「静止礼」を継続し、授業以外の場面でも教員からの声かけ・挨拶などを繰り返し、定着を図る。あいさつ運動に参加した生徒たちが率先して元気に挨拶できるように指導したい。
	豊かな心の育成と健やかな身体づくり	■月1回の学年会や各分掌と適宜情報交換を行い、生徒情報が共有され、生徒理解に努めている ■教育支援が必要な生徒については、分掌の枠を越え連携し、一丸となって生徒対応をしている ■朝読書の達成率が全体では88.9%と目標には達しなかったが、第2学年は97.8%と成果が現れている ■各種人権に関する実態調査(全学年)を実施し、その結果を踏まえ、いじめ防止LHRを行っている ■コロナ禍に対応しリモートでの開催も含め、各種の生徒会行事を実施した	■全教職員が連携し、生徒情報の共有と生徒理解に努め、きめ細かな指導を行う ■ホームルーム活動を通して、円滑な友人関係を育成する ■朝読書の達成率を全学年96%を目指す ■人権感覚を身に付け、いじめのない学校づくりを行う ■部活動も含め生徒会活動を充実させ、学校生活での満足度をアップする	■職員間での連携を密にし、生徒情報を共有し、問題の早期発見、早期解決に努める ■いじめアンケートやハイパーQ-Uを最大限に活用し、面談や情報共有を行い生徒理解に努める ■朝読書は学校全体で取り組み、その有用性を伝えていく ■職員間での人権意識と共通理解を高めながら、全教員で連携し、生徒へ人権意識の向上に向けての指導に取り組む ■伝統の継承と進化を引き続き検討し、魅力あるものを追求していく	■今年会や教科担当者を通して、生徒情報を積極的に共有できた。 ■全職員が連携し、支援の必要な生徒に対して保護者、本人と話し合い生徒に寄り添った支援を行うことができた。また、SCや医療機関のみならず、SSWなどと連携し、早期発見に努めスピーディーに対応することができた。 ■朝読書の達成率が全体では91.4%と目標には達しなかったが、昨年度(88.9%)より上昇し、読書喚起の効果があった。 ■境港市の協力や、各担任の創意工夫によって人権教育LHRの内容がより充実した。職員研修については現地学習が4年ぶりに実施できた。 ■生徒会行事の改革に着手した。生徒数減少に伴い、現状とあわない部分を改革することを心がけ、その際に生徒の意見を取り入れることに留意した。	A	■今後も継続して、様々な分掌や教科担当と連携を密にとり、生徒に寄り添った指導を心掛けていく。 ■学校全体で対応できる体制を作り、個別支援を継続して実施し、それぞれのニーズに沿った支援を行う。 ■朝読書の定着のための読書喚起を引き続き行いながら、生徒の読書環境の充実にも努める。 ■人権を配慮した生活面での援助や指導についても教職員の連携を図りながらいっそうの充実を図る。 ■大きな変革の際に、出来るだけ生徒の意見を聞きながら行うことと、丁寧な説明をする。
2 基礎学力の向上	基礎基本を大切に、生徒が主体的に参加する授業づくり	■マナトレに関しては、年間計画に合わせ毎週意欲的に取り組み、基礎学力が徐々に向上している ■生徒が主体となる授業作りに向け、指導者のICT機器の活用方法の研修に取り組んでいる	■生徒が主体的に学習に取り組む授業を推進するとともに、学びに向かう姿勢を育成する ■マナトレや補習等を充実し、基礎学力の定着と向上に努める ■ICT活用の校内研修や研究授業を実施し、授業力の向上を図る	■今後もマナトレを継続して取り組み、基礎学力の向上に努めるとともに、効果の検証を行い、生徒自身が効果を実感できるよう、今後の実施の在り方を検討していく ■生徒一人一台端末導入に対応し、生徒が主体となる学びやすい授業作りに向け、ICT機器の活用を更に推進する ■生徒の学力向上につながる教員研修等を継続的に受講をする	■マナトレについては計画通り進めており、多くの生徒は落ち着いて取り組んでいる。クラスによって進度に多少のばらつきはあるものの、基礎学力診断テストの結果に増進ではある効果が表れていた。基礎学力診断テストの結果については、進路希望先の相談や就職指導・進学指導等における参考データとして活用できた。 ■生徒一人一台端末導入に伴い、継続的に職員研修を実施し、教員の授業力向上に取り組んだ。 ■ICT機器を活用したPBL(課題解決型学習)への取り組みが、少しずつではあるができるようになってきた。	B	■マナトレについては、さらに検証を行い今後の指導のあり方を検討することが重要であるとともに、生徒自身が効果を実感できるような動機付けを継続的に行う。 ■3年生にとって進路決定後も日々の学習活動が重要であること、進路に関与する学びへの意欲付けの指導について検討する。 ■引き続き教員研修を実施し、ICT機器を意図的に活用するなど、授業力向上に向け取り組む。
	専門的資格取得の促進と魅力ある学科づくり	■地域に貢献できる人材育成のために、専門的な知識・技術の習得に努めている ■4級海技士(航海)4名合格、1級小型船舶操縦士10名 スーパー水産農林業士2名取得 ■自動車整備士登録試験、9名全員合格。4年連続合格率100%達成 ■第1種電気工事士4名合格、第2種電気工事士12名合格 ■福祉科介護福祉士国家資格16名合格。11年連続合格率100%達成	■時代にマッチした専門教育を深化する ■将来のスペシャリストの育成を目指す ■資格・検定試験の合格率を向上する ■各科の連携を密にし、総合技術フェア・課題研究発表会での学習成果発表会を充実させる	■専門技術者による講義や実技指導を通して、産業界の実態にあった授業を実施し、専門科目への学習意欲を引き出す ■専門学科の深い学びが高度な資格取得につながり、将来の職業選択にもつながることを早い段階から理解させる ■資格・検定試験に合格することで、生徒の自己肯定感を高めるため、引き続き講習を継続的にを行い、100%合格を目指すよう取り組んでいく	■社会人講師授業や外部指導者活用事業の実施、実習施設との連携を行い、効果的な学習指導が実施できている。 ■資格試験等に係る補習を放課後や休業中に実施し、試験対策をしたことが生徒の学びに向かう姿勢、意欲へのきっかけとなり資格取得の実績へとつながった。 ■自動車整備士登録試験は、5年連続100%合格を達成できた。第1種電気工事士7名合格、第2種電気工事士10名合格。	A	■引き続き多くの社会人講師の授業を実施し、実習施設との連携を行い、効果的な学習指導を行う。 ■資格の意義を理解する機会を設け、3年間での計画的な資格取得に取り組めるよう指導する。 ■合格することで生徒が自信をつけ、生徒の自己肯定感を高めるため、引き続き指導を継続的にを行い、100%合格を目指すとともに、生徒の主体的な学びを支援するよう取り組む。
3 ふるさとキャリア教育の推進	キャリア教育の充実	■進学希望者が増え、多様な受験形態・時期に対応し、受験指導を行っている ■キャリアパスポートは、学期の振り返りや課題研究の取組等の記入ができている ■すべての科でインターンシップを実施し、経験値の向上につなげた ■就職者の1次内定率が84%であった 学科の専門に関連した企業への就職84.4%、進学64.6% ■保護者と生徒を対象とした「内航船員の仕事説明会」を実施した	■進路指導計画に基づいた指導を徹底する ■キャリアパスポートを活用した生徒の自己評価と目標修正等の改善を支援し、個性を伸ばす指導を行う ■インターンシップにより職業観・勤労観を育成する ■進路ガイダンス、保護者説明会の充実を図る	■生徒状況や社会情勢に応じ、適切な進路指導に力掛ける。また、進学についても入試の多様化・長期化に対応し、指導の研究を進める ■キャリアパスポートの見直しを更に推進し、ふるさとキャリア教育の充実を図り、生徒の進路意識の向上につなげる ■適切な時期での体験的学習活動を実施し、進路選択に活かすとともに、企業との連携を深め、個々の生徒に合ったきめ細かな指導・体験へとつなげる	■就職指導、進学指導とともに、多様な生徒状況に対応し、長期にわたって個別の指導に取り組んだ。 ■キャリアパスポートについては、昨年度の反省点から内容を大幅に変更したが、改善すべき事項が残っており、検討が必要である ■合同企業説明会、応募前職場見学の重要性を生徒に理解させ積極的参加を促した。 ■インターンシップはすべての科で実施した。生徒アンケートからは「実際の職場の様子がよく分かった」「体験ができて良かった」「コミュニケーションの大切さを知った」という声が多くみられた。 ■就職の一次応募内定状況は約91%。	B	■生徒状況の多様化、社会情勢に対応した業種・職種研究を深める。進学についても入試の多様化・長期化に対応し、情報の共有や連携体制を強化する。 ■キャリアパスポートの記入形式を見直し、学習、実習、資格取得等と連動させるなど生徒も教員も活用しやすい形式を検討する ■インターンシップは、引き続き実施し、今後の進路選択に活かすとともに、企業との連携を深め、個々の生徒に合ったきめ細かな指導・体験へとつなげる。
	地域との連携と情報発信	地域連携と地域貢献	■総合技術フェアは実施方法の工夫で3年ぶりに来場者を招いて実施ができ、生徒にとってより良い学習の場となり、地域貢献活動にもつながった ■学校独自事業については、地域や地元企業と連携し実施できたが、海洋科の国際航海など、一部の事業で実施できないものもあった ■地域でのボランティア活動や、施設と連携した活動などできる範囲で実施した	■地域連携・地域交流活動を通して、生徒に自信を持たせ経験値を上げ、役立ち感、有用感を育む ■地域基幹産業の発展に寄与できる人材を育成する ■地域と連携したボランティア活動・実習等を実施する	■今後も地域や学校、生徒にとって有用なイベントには積極的に参加し、地域連携をさらに深め、地域貢献に役立つ活動に行っていく ■ボランティア活動を推進し、自主的に活動できる力を養う ■学校運営協議会を活用した地域連携の推進を行う	■境夢みなとターミナルを使用した缶詰類や新巻鮭等の実習製品の販売は、昨年を上回る延べ1400人の来場者に来ていただき、学校や科の取り組みをPRすることができた。また、新たにメルカリショップでの取り組みも株式会社さきさきざと共同で進めることにより本校の実習製品を全国にPR、販売することができた。 ■総合技術フェアを地域に公開し昨年の1.89倍となる769名の来場者があった。 「学校の雰囲気が良い」92%→96% 「将来職業に就いてから役に立つと思う」95%→96% 「生徒の頭髪服装やマナーなどの指導が十分になされている」89%→92% ■コロナ禍での経験不足や生徒意識の変化などから地域ボランティア活動に意欲的に取り組むも生徒は減ってきている。	A
4 地域との連携と情報発信	学校教育活動の情報発信	■実習や行事等、マスコミへの情報提供やホームページ掲載を迅速に行っている ■公式インスタグラムを6月下旬に開設し、タイムリーな情報発信を行った 使い方については周知の徹底ができなかった部分があった	■特色ある教育活動の公表・発信を通して、学校への理解を深める ■ホームページ・インスタグラム等による情報発信の充実を図る	■生徒・保護者・マスコミ等、方法や機会を工夫し、引き続き、的確な情報発信に努める。インスタグラムについては多方面で活用できるよう入力方法を検討する	■公式SNS・学校webページにより、学校行事や各科の取り組みなど積極的に情報発信することにより、本校の教育活動について保護者や地域の理解を深められた。 ■マスコミに情報を提供することにより、各メディアにも多く取り上げられている。 ■入学案内パンフレットを増ページし、「卒業生からのメッセージ」も掲載し、各科の内容、卒業後の進路をより詳しく紹介できるようにした。	A	■引き続き、的確な情報発信に努める。 ■令和6年度は「地域みらい留学」へ参加しネットだけでなく対面で県外の中学生へもPR。
	学校業務の精選と効率化	■職員会議資料を職員の端末での配信とし、準備時間の短縮・会議の効率化を図った ■朝の打ち合わせ時間を効果的に活用し、学年会の効率化を図った	■会議・委員会の業務を見直し、整理、統廃合を図る ■各会議は内容を精選し、時間短縮に努める	■会議資料を事前に配布し、内容等を把握する ■協議、連絡・報告は、前もって関係分掌と話し合い、必要最小限にとどめる	■校内情報共有DBなどを活用し、資料や情報を事前に配布、周知することにより、会議などの時間短縮に努めた。一方でDBの確認不足で、必要な連携や情報共有が不十分になることがあった。	B	■協議、連絡・報告について、事前に関係分掌との話し合いを密にし、必要な情報は自ら確認することにより、会議は必要最小限とする。 ■全職員が校内情報共有DBを確認する。
5 業務改善の取組	長時間勤務者の解消	■「境港総合技術高校部活動に係る活動方針」に定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行っている ■時間外勤務を月45時間以内、年360時間以内とすることが、ほとんどできている	■時間外業務を月45時間以内とする ■時間外業務を年360時間以内とする	■引き続き、定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行う ■業務内容を見直すとともに、時間外業務についての意識を高め、各自適切な時間管理に努める	■生徒指導対応等では可能な限り担任団で協力分担し、時間外業務削減に取り組んだ。 ■休日の大会・受験など部活・資格取得指導等で徹底できない時もあるが、適切な時間管理に極力務めることができた。 ■分掌や時期によって時間外業務が増えることがある。	B	■業務内容・分担の見直しを行う。 ■勤務の割り振り、週休日振り替え、代休取得を徹底する。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
〔100%〕 〔80%程度〕 〔60%程度〕 〔40%程度〕 〔30%以下〕